

児童発達支援ガイドラインの自己評価の実施報告

施設名： あきやまケアルーム

対象者：事業者職員・保護者

調査機関：令和6年6月1日～令和6年6月30日

公表日：令和6年7月19日

公表方法：ホームページ及び掲示

報告日：令和5年7月19日

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6 年 7 月 19 日

事業所名 あきやまケアルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	86	14		
	2	職員の配置数は適切である	57	43	配置基準は見たさ得ているが、子どもの状態で余裕を持たせた人員が配置されてもよいのではないかと思う時がある。	利用児童の介助必要項目を具体化して、人員配置を工夫したい。職員一人でもできる療育の幅を増やしたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0		
業務改善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	57	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43	14		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	57	0		

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	86	0		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	29	標準化と言えるかどうかは分からないが、ニーズに対応したアセスメントを記録するようにしている。	他施設交流会や勉強会などで情報を得て、ブラッシュアップしていきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	43	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	71	0		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	71	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	71	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86	0	少数の利用者、職員の施設のため、必ずしも毎日職員が一同に会することはできないので、保育日誌、連絡ノート、口頭などで、綿密に連携を取っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	71	0	支援終了直後ではないが、次の支援までには職員間での情報共有がなされるように、保育日誌、連絡ノート、口頭での直接申し送りなどを用いて工夫している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86	0		
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	71	0			

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	71	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	71	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	71	0		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	71	0		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	71	0		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57	14		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	71	0		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	29	14		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	71	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	71	0		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	57	0		

	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	86	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	86	0	個別支援計画更新の際の面談、自主送迎時などで直接伝えられた悩みや相談に対して、その場で対応しきれないと判断された場合は時間を取ったり情報収集してお返すようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	71	0		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	86	0	送迎時に声かけをし、保護者が話しやすいように心がけている。また得られた情報は職員間で共有し、支援へとつなげている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	71	0		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	71	0		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	71	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	29	0		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	86	0		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	71	0		

43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	86	0	
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71	0	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	57	0	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	57	0	毎月のミーティングで、ニュースに上がった事例や都から通知された情報をもとに、確認しあい話し合う機会を持っている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	42	0	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 6 年 7 月 19 日

回答者数5名

事業所名 あきやまケアルーム

		チェック項目	はい	どちらとも いい いえない	いい え	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	5	0	0	0	とても広いので動き回れる	
	2	職員の配置数や専門性は適切である	5	0	0	0	子供に対して大人の人数が多く安心	
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	0	1	活動内容がイラストになっていて分かりやすい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	0	0	清潔でおもちゃが多く、製作もできた	
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	5	0	0	0	相談の上、作成された	
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	0	0	保護者の希望を反映した具体的な内容になっている	

	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	0	1	支援計画に沿った支援を受けている	支援計画を基に、4か月に1回の療育記録を作成し、保護者への報告を行っている。
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	5	0	0	0	子供の様子を見てトイトレを始めても良いかなど提案してくれている	
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	0	0	0	合同保育、並行保育を楽しみにしている／行われていることは知っているが、現在の健康状態を加味してまだ希望していない	
適切な支援の提供	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	5	0	0	0	詳細な資料と、入園時の読み合わせがあった	
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	5	0	0	0	定期的な面談があり、説明を受ける機会がある	
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング iv 等)が行われている	3	0	0	2	まだ通い始めたばかりで、該当の支援があるかどうか把握していない	共通アプリでの配信は行っているが、周知されていない可能性があり、今後のお知らせ方法を話し合う予定
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	5	0	0	0	連絡帳に活動内容、子供の様子が詳しく書かれている	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	5	0	0	0	慣らし保育中に離す機会があった	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	5	0	0	0	保護者会で交流の機会がある	

	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	5	0	0	0	装具でのトレーニングを入れてもらっている	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	5	0	0	0	送迎の際に口頭で聞く機会がある	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	5	0	0	0		
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	5	0	0	0		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	5	0	0	0		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	5	0	0	0	具体的な避難の様子が知りたい／連絡方法について訓練があった(災害伝言ダイヤル)	避難訓練の写真を撮り、保護者に見せて共有したい。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	4	1	0	0	毎日、笑顔で楽しみにしている／登園時は泣いてしまうが楽しんでいるようだ	
	23	事業所の支援に満足している	5	0	0	0	家では甘えてしまってなかなかできないことも、園では頑張っているようだ	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。